

令和元年度第1回地区推進会議 会議録

1. 開催日時：令和元年 6月4日(火) 午後5時30分開始

2. 開催場所：勤労福祉センター 大会議室

3. 出席者

各地区委員 : 25名

社会福祉協議会 : 萩原常務理事、鶴ヶ谷事務局長、山崎事務局次長 ほか

地域支えあい課 : 岡崎課長、飯島主幹、近藤主幹 ほか

学校地域連携推進課 : 大崎副主幹、曾根主査

福祉政策課 : 高橋課長、白井主幹 ほか

4. 議事

(1) 「振り返りシート」に基づく平成30年度の取組みに係る意見交換

5. 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 テーマ別「振り返りシート」記載内容一覧表
- ・ 資料2 要望・課題等に対する行政の取組み
- ・ 資料3 コミュニティカレンダーの一部抜粋
- ・ 席次表

区 分	内 容
福祉政策課 白井主幹	<p>本日はお忙しい中、地区推進会議にご出席いただき、ありがとうございます。本日の進行を担当させていただきます福祉政策課の白井でございます。よろしくお願いいたします。本日出席いただいている委員の方は、お配りした席次表の通りとなります。</p> <p>会議に入る前に、福祉政策課長・地域支えあい課長より挨拶をさせていただきます。</p>
福祉政策課 高橋課長	<p>こんばんは。この4月から福祉政策課長となりました高橋です。福祉に携わるのは15年ぶりぐらいとなりますが、一生懸命がんばってまいりたいと思っておりますので、ご指導の程、よろしくお願いいたします。</p> <p>地区推進会議は、皆さまもご存じのとおり、第4期地域福祉計画に位置づけており、各地区であがっている様々な課題を検討する会議として設けさせていただいております。これから、振り返りシートを活用して課題などを皆さまと共有していこうと思っておりますが、この会議に向けましては、私も振り返りシートを読ませていただきました。皆さまの活動と、それに伴って生じている課題が、よくわかるものでございました。これらを私たちの取組みにつなげていきたいと思っておりますので、これからもご指導・ご指摘をいただければと思っております。</p>
地域支えあい課 岡崎課長	<p>こんばんは。あらためて、4月より地域支えあい課にまいりました岡崎でございます。4月から6月にかけてみなさまの総会に出席させていただき、ご挨拶をさせていただいたところでございます。地域支えあい課の職員も何人もかわっておりますが、今後も、地域づくり・福祉の分野での窓口・所管として一生懸命がんばってまいりたいと思っておりますので、今後とも、どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
福祉政策課 白井主幹	<p>続きまして、本日出席しております、市川市・市川市教育委員会・市川市社会福祉協議会の職員の紹介をさせていただきます。</p> <p><市川市・市川市教育委員会職員・市川市社会福祉協議会職員を紹介></p> <p>なお、本日は地域活動について現場を見学したいとのことで、千葉商科大学から和田教授・学生のみなさんも出席しておりますので報告申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>

(資料確認)

議事録を作成する都合上、ご発言いただく際は、お近くのハンドマイクをお使いいただき、地区及びお名前をお伝え下さいますようお願いいたします。また、ご発言が終わりましたら、お手数ですがマイクのスイッチをお切り下さいますよう併せてお願いいたします。

それでは、議題『振り返りシート』に基づく平成30年度の取組みに係る意見交換」に入らせていただきます。

まず、①要望・課題等に対する行政の取組みについて、説明をさせていただきます。

福祉政策課
正木主査

<資料2・資料3に基づき、説明>

学校地域連携
推進課
大崎副主幹

福祉政策課
白井主幹

ただ今の説明に関し、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

石崎委員

会議次第が本日差し替えになりました。事前に郵送された会議次第には詳細は記載されておらず、資料としても「テーマ別「振り返りシート」記載内容一覧表」だけだったので、それについて発言をすることになるのではということで準備をしてきましたが、当日議事進行を変更されると、また考えを整理しなければなりません。次回から会議次第は事前に郵送していただきたいと思います。

また、私たちが要望したことについて、「行政の取組み」欄に書いていますが、非常に行政的で、何をどのように検討しているのかわかりません。地域包括ケアシステム推進委員会の中で、どのような検討をしたのか、もう少し具体的に説明していただきたいと思います。

また、コミュニティ・スクールについてですが、私も初めて学校運営協議会に参加させていただきました。学校ごとに運営協議会があって、その中で話し合いがなされていることはわかるのですが、地域学校協働本部については具体的なイメージがわかりません。学校支援コーディネーターが、学校と、社協の活動・NPOの活動など地域の周りに存在している活動をつないでいくということだと思いますが、どういうふうに結び付けていくのか。南行徳の事例は1つの事例としてわかりますが、具体的なイメージがわからないので、説明していただきたいと思います。

福祉政策課
正木主査

1点目のご質問にお答えします。本来であれば、課を横断し連携して検討した結果生まれた施策をご報告できればよかったですのですが、そこまで至っておりません。そうした中で、どのような検討をしたのかという具体例として、周知・PRの工夫について申し上げますと、市川市では高齢者福祉に携わっている課が3課あり、それぞれの事業をそれぞれのWebページで発信しており、それを利用者の目線で、3課で話し合っただけで発信の工夫をするという場が、これまでありませんでした。そこで、周知啓発部会を設け、どうすればWebページが利用者目線でわかりやすい構成・ツリーになるのだろうかということをお話し合っています。市の公式Webサイトがリニューアルするという情報が入っておりますので、それとタイミングをあわせて変えていければ、と考えています。

学校地域連携
推進課
大崎副主幹

ご質問のありました学校運営協議会と地域学校協働本部の2つの組織についてお答えします。まず、学校運営協議会は各学校に設置させていただいています。石崎様にご協力いただいている真間小学校については、今年度学校運営協議会を設置させていただいており、来年度第二中学校ブロックで地域学校協働本部を立ち上げるということになっております。地域学校協働本部は、学校の教育活動をさらに充実させるため、地域にある教育資源・地域にある教育人材などをつなげる窓口です。この窓口を運営していくのは、地域住民である学校支援コーディネーターの方々です。具体的な取組みとしては、低学年でよく行われます昔遊びの学習などで地域の人材が必要な場合で、学校の先生方ではなかなか地域人材を探すことが難しい時に、学校支援コーディネーターの方々を通じて地域の方々にご協力をいただくことがあります。1つの学校の地域で人材を見つけられればいいのですが、なかなか人数が集まらないという場合は、より広い中学校ブロックで人材を探していくこととなります。このように中学校ブロックを1つの地域ととらえて本部を設置させていただいて、学校の教育活動に関し、連携・協働していく組織となっております。

福祉政策課
白井主幹

石崎委員、今の回答に対し、ご意見はありますか。

石崎委員

Webサイトで見やすいものを作るということはありがたいと思います。

私たちは毎日、相談者・利用者をたくさん受け入れています。高齢者のほうは、高齢者サポートセンターや地域にあるサービス事業所とだいぶ連携がとれてきて、私たちだけでなくプロフェッショナルな観点からも支えていただけるようになったということは大きな成果だと

思います。一方で、私たち真間地区では障がいをもった方がふらっといらっしゃるというケースが初期の頃からあります。障がい者支援課の方・がじゅまるの方・就労支援センターの方など個別にコンタクトをとるのですが、なかなか解決につながりません。孤立させないということが大事であり、「よってこ」を気にいって来てくださっているのですが、そういう方たちになんらかの専門的なアドバイスがあればいいなと思っています。障がい者の部分でも縦割りではなくて、横につながった支援をしていただけるようになるといいなと思います。

福祉政策課
白井主幹

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

それでは、②共通する地域課題に関する意見交換にうつります。テーマの内容と市川市の取組みについて、福祉政策課より説明をさせていただきます。

福祉政策課
正木主査

複数地区で共通して見受けられた地域課題である「地域ケアシステム・地域ケア拠点・地区社協活動の周知」をテーマとして、意見交換をさせていただきたいと考えています。

<資料2に基づき、各地区の振り返りシートの記載を紹介>

それぞれ若干の違いはあるものの、地域ケアシステム・地域ケア拠点・地区社協活動に限られた人にしか知られていない、もっと広く多くの市民の方々に知っていただく必要があるという内容であり、共通点があると考えたものです。

続きまして、この課題に対する行政の取組みについてでございますが、市公式Webサイトに「地域ケアシステム」のページを掲載しているほか、平成29年11月には、広報いちかわの特集面で「地域ケアシステム」を取り上げております。

また、来年度に向けての取組みの方向性といたしましては、予算要求前ですので、あくまでたたき台の段階ではございますが、多くの方に地域ケアシステムや地区社協に興味を持ってもらう下地として、幅広い市民の方を対象に、地域でのつながりや支え合いの大切さをわかっていただけるような講演会などを行う方向で予算要求に向けて検討しているところでございます。

福祉政策課
白井主幹

ただ今、複数地区に共通する課題として「地域ケアシステム・地域ケア拠点・地区社協活動の周知」があげられること、その課題に対す

る行政の来年度に向けての取組みの方向性について説明をさせていただきましたが、この方向性に関して、ご意見やご提案があればお願いします。

埴委員

各地区が地域ケア拠点の場所について、十分満足しているのかを聞きたいです。八幡地区では中央公民館の一室を借りていますが、公民館の前を通っても非常にわかりづらいです。数年前に、せめて表に看板をださせてほしいと言ったら市に断られました。こういうことで福祉は進んでいくのでしょうか。市で予算をとって、拠点を設置する場所をわかりやすいところ、みなさんが来やすいところに確保してほしいです。

地域支えあい課
岡崎課長

八幡地区の地域ケア拠点は狭いですし、知っていないと中に入っていけないということはよくわかります。ただ、看板設置を断られたいきさつを、私は今はじめてうかがいましたので、すぐにお答えができません。

八幡の拠点は、葛飾八幡宮の土地をお借りして市が公民館を建て、その中を借りているという複雑な事情がございますので、どのような形になるかわかりませんが、改善に向けた努力をさせていただきたいと思います。

永井委員

市川第一地区では、JRの高架下にある地域ふれあい館の一部が拠点です。八幡地区と同様で目立ちません。人通りがあるほうの反対側に入口があるので全く知られていないのです。選挙をする時は投票所になっているので、投票所と言えばわかってもらえます。拠点を目立たせるためのぼりを立てたら地域ふれあい館から苦情が来たことがありますし、出入りが不便なので改造したらどうかと言えば、いつ返納かわからないからそれもできないという話ですし、八幡地区と同じような悩みを持っています。サロンについては各自治会館も活用していて、そちらのほうがわかってもらえます。地域ケア拠点が一番わかってもらえないので、今後対応を検討してもらいたいと思っています。

松藤委員

菅野・須和田地区の松藤です。私たちも同様に苦労しています。

1つ目は、菅野公民館の中に拠点があるのですが、親身になって相談ごとができるようなプライバシーを守れるような広さもなければ間仕切りもありません。私も相談員も相談に来る方も、なんとなく相談しにくいなど、プライバシーに関わることを話していいのだろうかとお互いを感じている状況です。大変だとは思いますが、市が拠点などを周知するばかりでなく、いずれは予算をつけて場所を確保するという必要になってくるのではないかと、思います。

それから先ほどご意見がありましたとおり、公民館のところに看板がかけられないので、入ってきてから、ここがそうなのかとを感じるような状況です。「菅野公民館」という看板のわきに「地域ケア拠点」とか「相談窓口」という看板を一緒にさげさせてもらうようなことも考えてもらえたらと思います。

地域支えあい課
岡崎課長

各拠点の場所は正直申し上げてかなり苦心して確保したもので、公民館・地域ふれあい館など様々であり、高架下という形でお借りしているところもあります。できるかぎりわかりやすく、市民の方の身近な相談の場所ということで皆さまにお願いしているところでもありますので、ご意見をおうかがいいたしまして、お約束ができないのは申し訳ありませんが、できるだけ交渉・努力をしていきたいと思えます。

埜委員

中央公民館のことで。前課長の若菜さんをお願いしたのですが、車椅子を貸し出す事業をしているのに、ものすごい階段があってバリアフリーになっていません。若菜課長はさっそく次の日に見ていただいて、対応すると言っていました。どのように引き継いでいるのか、予算はとれているのかいないのかということを知りたいです。

福祉政策課
高橋課長

具体的に動きがあるとは聞いておりません。中央公民館については、バリアフリー、それから、靴を脱いであがらなければいけないということについても、地域の皆さまだけでなく公民館利用者の方からも、対策が必要だとお声をいただいていると聞いていますので、これから動きがでるのではないかと思います。

埜委員

車椅子で来られた方が階段をあがれないので、地域ケアのルームまではいずってきたという事実があります。そういうことをなくすためにもぜひとも対応をお願いします。私が自治会長になった時に、ボランティアでスロープを作ってあげるからと言ったら、市に止められました。止めるなら、市のほうで対応してほしいと言いましたが、もう十数年そのままです。

石崎委員

ものすごくいい議論ができています。私たちは地域ケアシステムができてから、長いところでは20年間近く活動しています。地域ケアシステムができた時は各拠点を確保していただく努力をしていただきました。ただ、それっきりほったらかしというのはいかがなものでしょうか。各地域から使いづらいという意見がでたら、具体的に公民館と交渉するのは地域支えあい課だとしても、福祉政策課が政策を立てていただく必要があると思います。解決できるものは次の地区推進会議ま

でに答えをもってきてもらいたいです。厚生労働省が5月16日に、地域共生社会の実現に向け伴走型の支援を強化ということで、市町村が住民の孤立・困窮・介護といった生活課題に総合的に対応するための方策について検討を始めたそうです。しかし、総合相談や伴走型支援の担い手については明確にしていないという状況のようです。私たちは、15～20年の間、地域住民としてやれることはやってきたつもりです。そして今、厚生労働省もこういった形で住民も参加してやってくださいと言っているのだから、それに対して行政の取組みというところで、しっかり1つ1つ意見をくみとっていただいて、解決してほしい。そのためにまさに市民目線で行政のほうに改善をせまっていたきたい、それがみなさま方の立場だと思しますので、よろしくお願ひします。次回の会議までにある程度の答えを持ってきてもらいたいです。私たちが夜の時間、簡単に集まってきているわけではなくて、やはり思いを伝えたくてここに集まっているので、ぜひ成果のほど、よろしくお願ひします。

滝沢委員

ひさしぶりに地区推進会議に参加しましたが、まだこういう拠点づくりの議論をしているということに驚きました。拠点がどこにあるかわからないという住民の方が多いということは放っておけない状況だと思います。行政側で早急に対処していただかなければ、今後また議論していても同じ意見がでてしまうと思います。地域の方がそれぞれ頑張っているということに留意いただいて、地域力を生かすために、行政側でもみなさんの要望を、極力、一刻も早く善処していただきたいです。私たち市川第二地区では、ふれあいセンターという恵まれた拠点があり、今までこういった問題はありませんでした。これほど困っているという地区があるのですから、ある程度約束してあげてほしいと思います。のぼり1本でも立てれば、場所も拠点もわかりますし、例えば葛飾八幡宮の境内の中にある八幡地区の拠点については、お宮様にお話しすれば解決することだと思います。私が自治連として話をしてきてもいいとは思っていますが、我々が動かななくても皆さん専門職ですから、しっかりと今後を見据えて要望に応じていただければと思っています。

福祉政策課
白井主幹

続きまして、地域の取組みです。「地域ケアシステム・地域ケア拠点・地区社協活動の周知」のため、各地区・団体で取り組んでいることを、お話いただける地区・団体の方がいらっしゃいましたら、お願ひします。振り返りシートに記載したことでないことでもかまいませんが、いかがでしょうか。

真間地区の振り返りシートを拝見しますと、「ホームページの充実に着手し、情報発信に努めた」という記載がありますけれども、この取組みについてご説明いただけますでしょうか。

石崎委員

真間地区社協では、だいぶ前からホームページを持っていましたが、管理する方がやめてしまったりして、ずっとそのままになっていました。今回、若い相談員さんが1人入り、ホームページやパソコンに強い80代の方とタッグを組みまして、ホームページを変えていきました。「真間よってこ」と入れていただくと検索できますので、ぜひ皆さんもご覧いただきたいと思っていますが、色々なサロンのことをその度に更新しています。1番効果的なのは赤ちゃん講座です。赤ちゃんのいる若いお母さんたちはホームページなどを見る回数が多いので。今まではサロンのことを掲示板や広報誌など紙ベースでお知らせしてきましたが、見る人が限られていました。ですが、若い相談員さんがタイムリーにサロンの様子をあげて、例えば「今回は赤ちゃんの手形・足形をとります」と書くと、それを見たお母さんが仲間にSNSを通じて発信するので、口コミの効果で、先日も大盛況でした。

私たちも地域ケアシステムをはじめから20年近くになりまして、担当者もそれぞれその分年をとっています。みんな頑張ってくれているので、だいぶ体調を壊した方もいらっしゃったことから、やむなく、参加する方に参加していただく、つまり運営を手伝っていただくがざるをえない状況がありました。教育委員会がゆとりぎ相談室の部屋をかえていただいたので、その作業もあり、とても大変でしたが、参加する方が引っ越しに関わることや前準備をしてくださいました。急病人がでたのでという話をしたら、意識を持って参加して下さるようになりました。また、赤ちゃん講座のほうでは、参加されているお母さんが、英語で歌って赤ちゃんを遊ばせることができるとおっしゃっていただいて、昨日その講座がありましたが、1時間英語で歌いっぱなしで体を動かして遊ばせてくれました。私たちの企画ではなく、そこで集まったお母さんが自分の力で企画するようになったということで、参加する側から、自分たちがやるんだというサロンになっていったのだと思います。また、赤ちゃん講座については、赤ちゃんの写真をとって、それをプリントアウトしてお渡ししていたのですが、とても手間がかかっていました。それが、今はアプリがあって、そこに写真のデータを入れておくと、パスワードを知っている人だけがプリントアウトし、ご両親やパパにも送ることができるということで、時代が変わってきたなと思います。私にはできないし、ホームページの更新もできないけれども、若い人を1人・2人入れることによって、大きな一歩を踏み出すことができたと思います。私たちも一生関わりたい

るというわけにはいきませんので、次世代につなぐために、若い方を活用させていただくということがすごく重要であると思いました。

福祉政策課
白井主幹

真間地区での取組みの説明でした。

若い方が相談員に入ってホームページを改善したことをきっかけに、サロンで若い方の参加者が増えた、広がっていったという事例でした。各地区でも、担い手でそういったことができる方がいらっしゃるかどうかという点で難しいところがあるかもしれませんが、事例としてご参考にしていただければと思います。

ありがとうございました。

この関連でもそれ以外でもかまいませんが、他にございますでしょうか。

それでは、続いて、「地域ケアシステム・地域ケア拠点・地区社協活動の周知」のためのいちかわ社協の取組みについて、ご説明をお願いいたします。

市川市社会福祉協議会
山口CW

社会福祉協議会が行っている周知・広報の取組みとしては、年3回会報を発行しております、編集委員会の中で地域活動が目に見えるような紙面づくりを意識しながら作っております。

また、ホームページも昨年頃にリニューアルをいたしまして、見に来た方がわかりやすい、つながりやすいような画面づくりを意識していきながら取り組んでいるところでございます。

また、この地区推進会議での意見や振り返りシートの内容を踏まえると、若い世代や子育て世代へのはたらきかけということもあらためて意識していかなければならないと考えております。今年度に入りまして社会福祉協議会のボランティアセンターのほうに、二俣にある東京経営短期大学、菅野にある昭和学院短期大学から、ボランティアについての講演・講話の依頼がございました。全員の授業ではなく、選択授業で40人・50人くらいの少人数の授業の中で、ボランティア活動やボランティアセンターの役割がお話をするメインになってくるのですが、地域のこと、地区社協の活動のこと、民生委員や自治会のこともふまえて説明をさせていただきました。こういうことの積み重ねがとても大事なのではと考えております。

今日和田先生がいらっしゃっている千葉商科大学には地域連携推進センターがございまして、和洋女子大学では社会福祉士の養成課程がございまして、社会福祉協議会とのつながりも強くなってきているところでございます。これまで社会福祉協議会が取り組んできたものをさらに良いもの、意味のあるものにしていきつつ、子育て世代や若い世代をうまく巻き込んでいくような、そういったはたらきかかあり方

をこれからも一緒に考えていながら形にしていければと考えております。ぜひ、ご意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

福祉政策課
白井主幹

ありがとうございました。

地域の取組み・社協の取組みに関しご説明いただいた内容と、行政の取組みに関しいただいたご意見を踏まえて、多くの市民の方が、地域でのつながり・支え合いの大切さを認識し、地域ケアシステムや地区社協に興味を持っていただけるよう、取り組んでいきたいと思っております。

これまで、「要望・課題等に対する行政の取組み」「共通する地域課題に関する意見交換」の2項目について意見交換をさせていただきましたが、それ以外に、ご意見があればお願いします。

戸田委員

新田・平田地区の民生委員をしております戸田です。前回の会議で、ごみ出しの実証実験をするというお話がありましたが、その結果はどうなったのでしょうか。

福祉政策課
白井主幹

前回の会議でお話ししたごみ出しの実証実験は5月から8月にかけて実証実験を行っている最中でございます。まだ清掃事業課から報告をいただけていない状況でございますので、あらためて確認をしたうえで、必要に応じて、また説明する機会を設けたいと思っております。

石崎委員

次回の会議はいつ開催されるのでしょうか。

福祉政策課
白井主幹

次回は10月に開催する予定です。

石崎委員

社協のほうでもお互いさま事業のモデル事業を3地区で検討しはじめるということで、7月からの会議が予定されているそうです。このお互いさま事業と清掃事業課が行うごみ出しとのすり合わせが必要であり、10月までは待っていただけません。清掃事業課のごみ出しは細かい要件があって、それは社協のほうでは設けないという話があったと思いますが、中間報告でもかまいませんので、社協の会議が始まる時には、参考にさせていただけるよう、ご配慮いただけたらと思います。

また、先ほど社協の山口さんから、大学生との接点をもたれたという話がありましたが、例えば、私たちが大学生の力を借りたいという場合には、どのようなルートでお願いにいけばよいのでしょうか。

市川市社会福祉協議会
山口CW

説明に行った大学の大学生の中でもボランティア登録をする方もいればしない方もいるので、今のところ、地域活動の協力をいただける方を大学・短大という形でとりまとめる仕組みはできていない状況です。ただ、千葉商科大学の地域連携推進センターや和洋女子大学でも地域連携の窓口ができていますので、そういったところとどのような形で連携できるかということについては、今後の課題として話をしていかなければいけないと思っています。

また、今回ボランティアの話をした時にボランティア登録に関心を持った学生が何人かいらっしゃって、その登録カードには、「地区社協への登録についてはどうですか？」というような記載欄がございます。「はい」とつけていただいた方については、個人のつながりとして、地区の活動に協力できるということになります。市川市民ではなく都内・近郊の市から通学している学生も多いので、なかなか市川市民でダイレクトに地域とつながるのは難しく、今は地域連携の窓口を通したつながりをさぐっていくほうが現実的ではないかと考えています。

福祉政策課
白井主幹

ありがとうございました。

ごみ出しについての意見をいただきましたが、タイミングの問題がある場合には、各地区の地域ケアシステム推進連絡会での説明・報告ということも、必要に応じて考えたいと思います。

原木委員

ごみ出しの件ですが、原木自治会も実証実験に手をあげました。要件に該当する世帯が30世帯ほどありまして、そのうちの3世帯から参加希望がありました。1軒目は5階建てのマンションの4階に住んでいる方ですが、この場ではお話しできない事情があって我々の自治会では対応できないということで、市に対応をお願いしました。2軒目は私の家から30メートルくらいの家でしたので、私が協力者をやろうと思っていましたら、数日後に亡くなってしまい、支援できなくなりました。3軒目はアパートに住んでいる方ですが、オーナーが同じ屋敷にいらっしゃいまして、その方が週に4回手伝ってくださるということなので、これは進めています。その他、市の清掃事業課からもう1軒該当する世帯があると聞いていますので、詳しい情報が入りましたら、前向きにやっっていこうと考えております。善意の取り組みですが、色々問題があるということも、私も認識しました。

福祉政策課
白井主幹

原木自治会での取り組みをご報告いただきまして、ありがとうございます。原木自治会では、地域の方にお手伝いいただくコミュニティ支援型という形で実証実験に参加されているということだと思います。あわせて行政が直接支援する直接支援型という形で実証実験に参加し

ている地区もございますので、そちらもあわせて結果を確認して、今後どのような形がいか結論をだしていくことになるだろうと思います。重要な取組みの実例ということで、ご報告、ありがとうございます。

他にも何かございましたら、お願いします。

福祉政策課
白井主幹

先ほど、大学と地域の連携のお話がありましたが、千葉商科大学から和田教授と学生の皆さんが来てくださっていますので、地域連携や学生の活動など、コメントがございましたら、お願いします。

千葉商科大学
和田教授

活発なご議論をお聞かせいただき、ありがとうございました。今日は学生が、2年生が2名、1年生が3名、来ています。これは、地域の未来を考えた時に大事な資源だと思います。1年生は最低でもあと3年間は地域で学ぶわけです。この後、私のほうからコメントをさせていただいて、その後、地域の課題に実際に関わっている学生が来ていますので、リーダーである2年生の阿波野から、今日のご議論を聞かせていただいて何を思ったのかということコメントさせていただき、その後1年生から名前と顔を知っていただくために紹介をさせていただければと思っています。

それでは、私のほうからコメントをさせていただきます。今日のご議論の中で、地域の大学・短大・専門学校とのつながりをどう作るかということがありましたが、ボランティアの枠からはなかなかでづらいということがあると思います。そこで従来のパターンとして話にでてくるのは、地域連携推進センターですが、地域連携推進センターでボランティア登録をしている学生の数は、じつはどんどん減っています。なぜかという、それどころではないという学生の事情があります。千葉商科大学の学生の半分以上は奨学金をもらっています。いわば借金をしながら大学で学んでいて、卒業して半年後からは借金返済が始まるわけです。そうすると学生たちとしては、ボランティアをする時間があれば稼いでなるべく借金を少なくしたい、それがリアルな現実です。そこで今日は、これは私の役割でもあるのですが、「資格」というキーワードを提案したいと思います。

その中でも2つありまして、1つ目は、単なるボランティアということではなくて、活動に関わることが資格や単位取得など、卒業後のメリットにつながるというしっかりとしたロードマップを作ってあげることが大人の責任であろうと思っています。大学・短大が、地域課題に向き合って地域の皆さまと一緒に活動する学生に、なんらかのインセンティブ・メリットをつくってあげることが必要だと思います。2つ目として、「資格」は学生だけの問題ではありません。

市民の方も、昔でいうとヘルパー3級程度のごみ捨てや生活支援ができる、基本的な知識を学ぶ場、市川市のほうではもう準備されているようですけれども、これを積極的に拡大しながら、地域住民の方々が活躍できる資格・場を作る。そして、そこで学生たちとリンクすることによって、新しい風・新しいストーリーを作っていくべきだろうなということを感じました。

千葉商科大学
阿波野さん

みなさん、こんばんは。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。学生代表としての立場から話をさせていただきます千葉商科大学人間社会学部2年の阿波野と申します。よろしくお願いいたします。

本日のご議論、私にとっても参考になる部分が多くありました。私は「よろず隊」という活動を行っております。「よろず隊」では、真間地区と国府台地区を中心に、ごみ出しや電球交換などの保険外のサービスをメインに活動をさせていただいております。和田先生が先ほどおっしゃったように、無償でのボランティアは担い手が減ってきておりますので、「よろず隊」は15分300円の料金をお客様から頂いて活動を行い、そのお金を学生に還元する形で、無償ボランティアではなく有償ボランティアの活動として行っております。

本日のご議論を聞かせていただいて、印象に残ったところとして、「てるぼサロン」や「地域ケアシステム」について、わからない人も多いので、わかるような広報や宣伝を心掛け、認知度をあげてほしい。」ということについてですが、自分たち「よろず隊」も、まだまだ認知度が低いです。行政の取組みとして、幅広い方を対象として講演会を行うという説明がありましたが、学生でもできることであり、自分たちもまだまだできることがあると思いました。

本日は、ありがとうございました。

それでは、よろず隊のメンバーを紹介させていただきます。

<千葉商科大学 稲田さん(2年)・坂本さん(1年)・
高橋さん(1年)・長谷川さん(1年) が氏名のみ自己紹介>

福祉政策課
白井主幹

ありがとうございました。それでは、最後に、福祉政策課長の高橋より挨拶をさせていただきます。

福祉政策課
高橋課長

皆さま、ありがとうございました。いくつか宿題をいただいておりますので、次回に向けて少しずつになるかもしれませんが、前に進んでいければと思っています。学生の皆さんとも、これからまた、色々

福祉正確課 白井主幹	<p>と連携がとれればいいのではないかと考えておりますので、よろしく お願いします。</p> <p>本日は本当にありがとうございました。</p> <p>以上で本日の地区推進会議は終了いたします。次回会議は10月頃の 開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>みなさまお疲れ様でした。</p>
---------------	--